

こうげ音楽倶楽部

懐古館が音楽に染まった秋

こうげ音楽倶楽部発足後初めて迎える秋は、まさに「芸術の秋」となりました。

9月には、ゆいきららで開かれている「田舎の居酒屋」にお邪魔し、西友枝小学校校歌、川の流れのように、高校三年生など、おなじみの曲を演奏させていただきました。お客様も大変盛り上がり、とても楽しいひとときとなりました。

また、懐古館(旧中央公民館)にて2つの企画を開催しました。10月の「えほんとおんがくの会」では、赤ちゃんから大人の方まで総勢200人を超えるお客さんがご来場。温かい雰囲気の中、絵本のお話と楽器の生演奏を存分に楽しんでいただきました。なかでも、ラストに演奏した「テキーラ」では会場全体が1つになり、掛け声とダンスで大いに盛り上がりました。11月には、国内外で大活躍中のフルート奏者・赤木りえさんのトリオライブを行いました。19時からのスタートとなったこのライブ、夜の懐古館の雰囲気は格別で、歴史を感じさせる建物に演奏者の皆さんも感激されていた様子。この日は約60名のお客様が一流の音楽を間近で堪能されました。ライブの終盤には、こうげ音楽倶楽部団員も壇上に上げていただき「君といつまでも」を一緒に演奏。地元住民の方もマイクを握り、素晴らしい夜に花を添えていただきました。

私たちは、この2つの自主企画を開催するにあたり、懐古館に古くからあるピアノをぜひ使用したいと思い話し合いを重ねました。ピアノは正常に弾けない状態にありましたが、調律師の方に調整をお願いし、見事に復活しました。建物同様ピアノも大変歴史深いもののようで、味わい深い音色は言うまでもなく、脚のつくりやメーカーの刻印など、珍しい造作も見受けられます。今後のイベントでは、ぜひこのピアノにもご注目ください。

※お祭、集まりなど出張演奏もしています。気軽にお声かけください。

●問い合わせ先 こうげ音楽倶楽部 TEL 090-7929-4916(弦本)



原井婦人会

味噌、麴の勉強会

11月22日(土)、好天氣に恵まれ紅葉が深まるなか、宇佐市の料理工房「とうがらし工房」に11名で訪れ、味噌と麴について、調味料マイスターの神谷禎恵先生からご教示いただきました。

色々な種類の味噌の味見をしましたが、慣れ親しんだ我が家の味が一番シッカリきました。「味噌の味は遺伝性が強い」という先生の言葉に納得です。しかし、地元にあるもので新たな旨味を追求したいと話を進め、旨みのある味噌の開発について検討した結果、地域の特産物開発の課題も見えてきました。少しずつですが今後の開発を楽しみにメンバー全員で頑張っていきたいと思います。

●問い合わせ先 原井婦人会 TEL 72-4322(近砂)



友枝新聞発行し隊

わくわく友枝瓦版26号発行

年4回発行している友枝瓦版の26号を発行しました。

あんな人・こんな人では地域おこし協力隊として町に住み、「田舎暮らし研究交流サロン」の管理人でもある西塔大海さんの紹介や松尾山回峰行の様子などをはじめ、町内で行われたイベントや出来事をスタッフ自ら取材、編集し掲載しています。読者の皆さんに少しでも多くお届けできるよう今後もがんばります。

現在定期購読をしてくれる方や広告掲載を募集しています。詳しくは下記までご一報ください。

●問い合わせ先 友枝新聞発行し隊 TEL 72-2888(藤本)



お囃子嫩

秋の訪れ

9月6日(土)、秋の訪れを告げる「新吉祭り」の舞台に臨み、上毛町伝統のお囃子、篠笛、和太鼓の演奏を大勢のお客様の前で披露しました。

また、9月28日(日)には、敬愛会(たいへい苑)感謝祭でも多くのお客さまの前で演奏しました。

新しい創作楽曲も積極的に練習し、舞台人としても成長しており、上毛町の伝統・伝承文化は、確実に若い世代に受け継がれています。

●問い合わせ先 お囃子嫩 TEL 090-4997-3414(橋本)



コスモちょぼら会 & 原井婦人会

北九州エコタウン見学研修会

11月5日(水)、北九州市エコタウンに見学研修会に行きました。エコタウン事業の概要説明では、日本の高度成長を支えた一方で、深刻な産業公害を抱えることになったが、これに市民・行政・企業が一体となって取り組み“死の海”と化した洞海湾、降下ばいじん日本一を記録した空から、見事美しい海と空を取り戻した過程、更にはそれらの技術を活かし資源循環型社会の構築に至るまでの経過を説明してもらいました。

その後「ペットボトル」と「蛍光管」のリサイクル事業をそれぞれの事業所でビデオを交えての説明を受け、作業現場を見学しました。ペットボトルからは高級ペット樹脂を経て再び容器やバッグ・衣類まで様々な製品に生まれ変わっていること、また蛍光管からはガラス製品・金属やセメント原材料・水銀などへの再利用がなされていることなどを学びました。いずれもこれらの再生過程では、消費者の正しい分別が大事なカギであることに改めて思い知らされました。

最後に自然エネルギー利用の風力発電事業(1500kw×10基／1基でおよそ1000～1500世帯電力供給可)を目の前で見学しながら説明を受けました。この見学会には地域づくり活動団体の「コスモちょぼら会」「原井婦人会」と「あすなろ会」の方々も参加し、一緒に学び、交流しました。

●問い合わせ先 コスモちょぼら会 TEL 72-2765(上野)

●問い合わせ先 原井婦人会 TEL 72-4322(近砂)



上毛龍神太鼓

松尾の山が賑やかに

10月4日(土)、松尾山で行われた観月祭にて、和太鼓演奏を披露させていただきました。普段は静かな松尾の山に和太鼓から発せられる迫力ある音が響き渡り、観客の皆様からとても力強い声援や拍手が寄せられ、とても感激しました。

このほか、敬愛会感謝祭や上毛町文化祭、筑豊緑地で行われた太鼓ピクニックなどでも演奏し、和太鼓を通して活動の幅も広がっています。

普段は、懐古館(旧中央公民館)で、和太鼓の練習をしていますので興味のある方は、お声をかけてください。

●問い合わせ先 上毛龍神太鼓 TEL 72-2606(中)



ネットワーク友枝

紅葉と案山子と牛と

11月16日(日)、会員といつも地域づくり活動でお世話になっている方との20名で秋の耶馬溪路に研修に行きました。

まず、山国の猿飛千壺峡で自然が長い年月かけて作り出した景観に大感動。大平山の峠に眠る「お菊の墓」ゆかりの毛谷村六助の墓と、黒田官兵衛家臣の後藤又兵衛の墓では、今でも地元に残されている故人に想いを寄せました。

戦後、長野県からの入植者たちが切り開いた開拓地で、若い3人の兄弟が牛200頭を飼育している牛舎の見学では、たくましい牛たちや可愛い子牛に癒されると共に大変さが伝わってきました。また牛乳工場や被災地から移住してきた方のレストランでは食に対する安全が再認識させられるなど、日頃できない貴重な体験ができました。帰りに神仏習合御田植祭で有名な檜原山正平寺に参拝し、皆それぞれ木札に願い事を書いて納めました。後日護摩焚き供養をしてくださるそうです。

秋日和の中、折しも紅葉や案山子も楽しめ有意義な研修となりました。上毛町でもこんな企画ができないかと検討中です。皆さんからの情報をお待ちしています。

●問い合わせ先 ネットワーク友枝 TEL 72-2178(貴村)

